

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3870105016
法人名	社会福祉法人道真会
事業所名	グループホームはぶやま
所在地	松山市高岡町 7 7 9 番地 6
自己評価作成日	平成23年12月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成24年1月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

管理栄養士による献立で、栄養管理が出来ている。団地内にあり、山を背にして、季節の変化を体感できる静かな環境にある。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

●ご自宅が事業所近くにある利用者とは、歩いてご自宅を見に行かれたり、馴染みの神社や海岸周辺、昔は映画館だった場所等、利用者の年代にとって懐かしい場所をドライブして巡り、思い出話を楽しまれている。その折に撮った写真を、後日見ながら、お話をされると、他の利用者の方も興味を持つようになり、今では、みなが交代で出かけるようになられたようだ。 ●利用者同士で食べ物の話をされていて、カップラーメンを食べてみたくなって、買いに出かけて作って食べてみられた。調査訪問時、利用者は「みんなで分け合って食べたのがとても美味しかった」と話してくださった。 ●事業所は、山に近い立地のため、土砂くずれ等も想定して対策を立てておられる。大雨の際には、自治会長や地区の防災士の方と連携を取り、山の状況や水量の情報収集を行っておられる。地区の緊急連絡網には、事業所も入り、連携する体制が作られている。年2回の避難訓練では、出火場所の想定を変えたり、毛布を使って2階から利用者を降ろす訓練をされた。

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23, 24, 25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目：9, 10, 19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらい				2. 家族の2/3くらい
			3. 利用者の1/3くらい				3. 家族の1/3くらい
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18, 38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2, 20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらい				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらい				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目：11, 12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらい				2. 職員の2/3くらい
			3. 利用者の1/3くらい				3. 職員の1/3くらい
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらい				2. 利用者の2/3くらい
			3. 利用者の1/3くらい				3. 利用者の1/3くらい
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目：30, 31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらい				2. 家族等の2/3くらい
			3. 利用者の1/3くらい				3. 家族等の1/3くらい
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目：28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらい				
			3. 利用者の1/3くらい				
			4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I.理念に基づく運営
- II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含まます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含まます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含まます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホームはぶやま

(ユニット名) 星組

記入者(管理者)

氏 名 柳原 ゆかり

評価完了日

平成23 年 12 月 20日

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所 理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有 して実践につなげている	(自己評価) 事務所内に掲示しており、朝の申し送り時に唱和している。 実践しようと努めているが、日々反省すべき点もあり個々で 再確認している。	
			(外部評価) 管理者は、職員と思いをひとつにして、「利用者の穏やかな 暮らしを支えていきたい」と考えておられ、「素直、反省、感 謝、謙虚、奉仕」の「五つの心」を心がけて、「いつも笑顔 優 しき 思いやり」という事業所理念の実践に取り組んでおられ る。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられる よう、事業所自体が地域の一員として日常的に 交流している	(自己評価) 朝の清掃時、利用者と散歩時などに、地域の方と挨拶をし たり、会話をしたりと、少しずつではあるが交流している。	
			(外部評価) 近所の方とは、散歩時、あいさつを交わしたり、時には事業 所前のベンチで利用者とおしゃべりされている。地区の集会 所で、認知症サポーター養成講座が開催された際には、職 員も参加して、地域の方から介護について相談をお受けし たり、認知症の対応についてアドバイス等をされた。講座 後、希望者には事業所を見学していただき、事業所のケア の様子を実際に見ていただいた。	今後さらに、利用者が、地域の方達と交流する機会が増える よう、地域行事・事業所行事の機会を活かして、取り組みを すすめていかれてはどうだろうか。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症 の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向 けて活かしている	(自己評価) 運営推進会議で地域の方に報告したり、他 交流出来る場 に参加したりして理解を広めるよう努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価)	
			運営推進会議に、地域の方々や利用者、職員にも話し合いの場に参加して頂き、それまでの取り組みを報告し、意見交換をしている。議事録にのこして、業務に活かしている。	
			(外部評価)	
			職員は、自治会の役員や民生委員の方のご自宅を訪問して、会議の案内をされている。会議時に、肩こり体操や健康教室を行ったり、地区の防災訓練に参加した際のこととも報告された。	今年度は、職員の入れ替わりや利用者の状態が不安定だったこともあって、会議の開催が遅れがちになっている。概ね2か月に1回、会議を開催できるよう、会議の日程や計画の工夫が求められる。人が集まりやすい会議となるよう、内容についてもメンバーの方達と相談されてみてはどうだろうか。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価)	
			管理者が連絡を取っている。「はぶやまだより」を発行して送付している。	
			(外部評価)	
			運営推進会議には、市や地域包括支援センターの担当者が参加してくださっており、防災訓練については、事業所の立地条件等も踏まえたアドバイスをくださった。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価)	
			職員同士で確認し、理解している。危険防止のため、家族にも理解いただき、夜間の時間帯、施錠することはある。	
			(外部評価)	
			利用者の気分が落ち着かないような場合、時には、利用者を散歩に誘う等して、気分転換できるよう支援されている。「傷を搔かないように」、現在、両手に布製ミトンを付けている利用者も見られる。職員は、ご本人の気がまぎれるように、楽しく会話できるよう話題を工夫されたり、ご本人が集中できることを探して、かかわっておられる。食事時は、ミトンを外して食事されている。夕方や職員の人数が少ない時間帯には、ユニット出入口を施錠されている。	利用者の状態のこともあるだろうが、事業所の理念に立ち戻り、今後もさらに、身体拘束をしないためのケアの工夫を考え続けていかれてほしい。さらに、職員の人員の制限もあるだろうが、グループホームの目的や意義等も踏まえて、ユニット出入口の施錠についても、利用者の立場から話し合われてほしい。

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価)	
			日常の介護を落ち着いて行い、見過ごされる事がないよう注意し、職員間で情報交換している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価)	
			管理者が対応しており、職員間で話し合い活用できる様にしている。現在は利用されている方はいない。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価)	
			ケアマネジャー・管理者と家族で話し合い、不安な点があれば説明し納得していただいている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価)	
			利用者との話しや、家族との面会時意見交換している。家族会があった場合、議事録を作り、内容検討している。	
			(外部評価)	
			ご家族の来訪時には、職員は必ずあいさつをして、利用者ご本人の暮らしの様子を報告し意向を聞く等、ゆっくりお話しする時間を持つ等して、「家族との距離を縮める」取り組みを重ねておられる。ご家族から、「運動を増やしてほしい」という意見があり、事業所では、ラジオ体操や食後の歩行訓練を行う機会を作ったり、みなで「風船バレー」を行い、手足を動かしながら楽しむ機会を作っておられる。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見 や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価)	
			月に一回ワーカー会を実施し職員間で話し合い、意見交換 している。決まった事項は議事録に表記され すぐに実施で きるよう取り組んでいる。	
			(外部評価)	
			毎月、職員が集まる「ワーカー会」時、職員でケアや業務に ついて意見を出し合っておられる。ワーカー会時、介護経験 の浅い職員は意見を出しにくいだろうと、管理者は、日々の ケアの中で個別に話を聞いたりアドバイスをされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、 勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やり がいなど、各自が向上心を持って働けるよう職 場環境・条件の整備に努めている	(自己評価)	
			年に2回、自己評価シートにより反省し、目標を持って業務 できるようになっている。自己採点する事で自分自身の不足 部分を知り伸ばしていけるようにしている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの 実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機 会の確保や、働きながらトレーニングしていくこ とを進めている	(自己評価)	
			事務所内に研修予定表を貼っており、受けた研修を希望 し参加できるようになっている。研修後は報告書を作成し職 員の勉強会で発表している。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する 機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互 訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上さ せていく取組みをしている	(自己評価)	
			管理者が事業所連絡会に参加している。他施設との研修会 に職員が参加し勉強している。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っ ていること、不安なこと、要望等に耳を傾けなが ら、本人の安心を確保するための関係づくりに 努めている	(自己評価)	
			入所時、管理者と家族が話し合う時間を持ち、安心できるよ うにしている。利用者の調査表をもとに、要望を聞けるよう努 めている。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が 困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾け ながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 面会時に、本人の生活状況を報告したり 家族の要望を聞 きだしたりしている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族 等が「その時」まず必要としている支援を見極 め、他のサービス利用も含めた対応に努めてい る	(自己評価) 本人や家族から話を聞き、日常生活で必要としている事見 極めるようにしている。不安にならないよう細かいケアを行っ ている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におか ず、暮らしを共にする者同士の関係を築いてい る	(自己評価) 利用者一人一人の気持ちを考えながら信頼関係を築き、生 活していけるようにしている。出来る事があれば、お手伝いも して頂いている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におか ず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本 人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 季節ごとの行事があればご案内し、参加をお願いしている。 月末には家族へのお手紙を作成し、管理者が、他書類ととも に、お送りしている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場 所との関係が途切れないよう、支援に努めてい る	(自己評価) 面会時には、本人と家族との時間をゆっくり過ごせるようにし ている。散歩に行ったり、買い物に行ったりと楽しまれている。 (外部評価) ご自宅が事業所近くにある利用者とは、歩いてご自宅を見に 行かれたり、馴染みの神社や海岸周辺、昔は映画館だった 場所等、利用者の年代にとって懐かしい場所をドライブして 巡り、思い出話を楽しまれている。その折に撮った写真を、 後日見ながら、お話をされると、他の利用者の方も興味を 持つようになり、今では、みなが交代で出かけるようになられ たようだ。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者同士の関わりについて職員間で話し合う機会を持ち、孤立させないよう支援している。職員が声かけをし間に入ることもある。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退所後でも、必要に応じ、管理者・職員が関わることもある。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日々の話の中から、本人の思いを汲み取るようにしている。 (外部評価) 年に1回、フェイスシートを取り直して、新しい情報を収集されている。利用者とのお話の中で得た情報は、センター方式を利用してアセスメントされており、干し柿や漬け物を手作りされていたことや油絵がお上手等、利用者個々に得意なことや以前の様子について発見もあり、そのような情報をもとにして、ご本人のできそうなことを探り、支援されている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) フェイスシートを参考にし、馴染みのものがあれば活用し、環境作りに努めている。日々の会話からも情報を得るようにしている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 日々、体調の変化があるため、細部まで記録に残し職員間で申し送りできるようにしている。報告・連絡を強化していきたい。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価)	
			家族の意見を聞き、利用者にも参加していただく。作成時、職員の意見も取り入れている。	
			(外部評価)	
			ご家族や利用者の意向を踏まえて、介護計画を作成しておられる。又、介護計画の支援内容については、毎日◎△×でモニタリングされている。介護計画作成前には、モニタリングに沿って評価して、計画を見直しておられる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価)	
			ケアプラン評価表に記録し、職員が毎日情報交換できるようにしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価)	
			その都度、職員間で話し合うが、まだまだ柔軟な支援ができていないことがある。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価)	
			建物周りや畑などに季節の花を植え、日々楽しめるようにしている。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価)	
			訪問診療があり、利用者の状態を報告し、体調に応じて指示をいただくようにしている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(外部評価)	
			体調面で気になるようなことがあれば、主治医が直接ご家族に電話連絡して状態を説明されている。ご家族は、主治医に直接、相談したりアドバイスを受けられることが、安心につながっているようだ。入居前から診てもらっている専門医を受診される場合には、ご家族が付き添われているが、都合によっては職員が同行してご家族に報告されている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	(自己評価)	
			小さな変化も見落とさないよう職員間で情報交換をし、医師に連絡できるようにしている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価)	
			本人・家族への話し合いは管理者が行っており、職員へ報告している。	
33	12		(外部評価)	
			入居契約時、終末期のあり方について利用者ご家族の希望をお聞きしているが、これまで「事業所で最期まで」と希望される方はおられないようだ。持病がある利用者も多く、状態変化時には、近くにある母体病院へ入院となるケースが多い。入院中は、職員はお見舞いに行かれたり、最期は、付き添われることもある。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価)	
			個人で研修を受けた後、ワーカー会で発表の場を設け話し合っている。訓練も定期に行っている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価)	
			消防訓練を定期的に行っており、地域の方とも協力体制が取れるよう努めている。	
			(外部評価)	
			事業所は、山に近い立地のため、土砂くずれ等も想定して対策を立てておられる。大雨の際には、自治会長や地区の防災士の方と連携を取り、山の状況や水量の情報収集を行っておられる。地区の緊急連絡網には、事業所も入り、連携する体制が作られている。年2回の避難訓練では、出火場所の想定を変えたり、毛布を使って2階から利用者を降ろす訓練をされた。	避難訓練を地域やご家族も一緒に体験されたり、利用者の状態や天候、季節、いろいろな災害の場面を想定して避難訓練を重ねていかれてほしい。課題を明らかにして、さらなる利用者職員の安全安心への取り組みをすすめていかれてほしい。
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価)	
			日々、心掛けてはいるが、丁寧な言葉かけが出来ない場合もある。	
			(外部評価)	
			職員は、よく利用者に声をかけるようにされている。3階のトイレのドアが現在、故障しており修繕をお願いされているが、修繕されるまで利用者のプライバシーに配慮して、のれんをかけておられる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価)	
			利用者の思いを引き出せるような、声かけをするよう心掛けている。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、 一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのよ うに過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価)	
			大まかな一日の流れはあるが、体調をみて出来るだけ本人 のペースで過ごせるように支援している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう に支援している	(自己評価)	
			自分で出来る方は、意思を尊重し、出来ない方は職員が、 その人らしさを出せるように働きかけている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好 みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に 準備や食事、片付けをしている	(自己評価)	
			料理の下ごしらえや、テーブル拭き・下膳・おしぼり巻きな ど、一人一人出来る事を手伝って頂くようにしている。	
			(外部評価)	
			法人施設の管理栄養士が立てた献立に沿って、事業所で 食事作りされている。食材は、法人栄養士が注文してくれ届 くようになっている。昼食時には、職員は、旧正月にどんなお 餅を搗くか、利用者に相談されていた。利用者の状態に応じ てミキサー食にされたり、スプーンを使っている方も見受けら れた。湯のみは、それぞれのお気に入りものを使っておら れる。食後、下膳される方、テーブルを拭いてくださる方も あった。	法人の方針もあり、食事中、職員は、利用者のサポートに徹 しておられる。「利用者が食事を楽しむことのできる支援」に ついて、事業所では、どのような支援ができるかグループ ホームならではの支援について、話し合われてみてはどうだ ろうか。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じ て確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣 に応じた支援をしている	(自己評価)	
			管理栄養士の指導に基づいての献立で調理しており、一人 一人に合わせ、食べやすい大きさ・形にしている。水分量は 日々の体調により、調整している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、 一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔 ケアをしている	(自己評価)	
			毎食後、口腔ケアを行っており、声かけをして出来る方、仕 上げ磨きを必要とする方、介助を要する方、さまざまであるが 清潔に保てるように努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価)	
			排泄の状態を時間毎に生活記録に記入している。訴えのある方はその都度誘導、訴えのない方は定時に誘導している。おむつのあて方を工夫し、無駄の無いように努めている。	
			(外部評価)	
			利用者の排泄のパターンに沿って声かけや誘導をして、トイレで排泄できるよう支援されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価)	
			水分補給をこまめに行っている。便秘のひどい方は薬を服用し、調整する時もある。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価)	
			基本的には、曜日・時間は決まっているが、気分や体調に合わせて、日中の時間で調整し入浴される場合もある。	
			(外部評価)	
			季節によって菖蒲湯、ゆず湯、みかん湯等で香りを楽しみながら入浴できるようにされている。着替えは、ボタンの止め外し等、ご自分の力でできることは、時間がかかっても行えるよう、職員は見守るようにされている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価)	
			体調をみながら、臥床する時間が取れるようにしている。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬管理表をつくり、体調の変化があれば調整したり、申し送りをし、職員間で話し合いをし、確認している。内容や量が変わった場合、薬局から報告がある。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 毎日の会話の中で、やりたいことを聞き出し、レクリエーションに取り入れたり、月ごとの歌を決めて、おやつ時に全員で歌う時間を設けている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 少しでも気分転換できるように、散歩に行く時間を作ったり、家族の面会時、一緒に外出する支援の協力もいただいている。 (外部評価) 外出場所は、職員が提案して利用者と話しながら決めたり、以前出かけた時のことを話しながら決めることもある。お花見や系列の幸富久荘でのそうめん流し、喫茶店でケーキを食べたり、回転寿司等の外食にも出かけておられる。利用者同士で食べ物の話しをしていて、カップラーメンを食べてみたくなって、買いに出かけて作って食べてみられた。調査訪問時、利用者は「みんなで分け合って食べたのがとても美味しかった」と話してくださった。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 一部の利用者は管理できる範囲のお金を所持している。他は、事務所に管理している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 携帯電話を持っている方もおられ、自由に使用されている。本人からは手紙のやり取りはしていないので、職員が近況報告を手紙で送っているが、その中に、今後本人からのものを取り入れることが出来ればと思う。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価)	
			季節ごとに壁面を飾ったり、利用者が散歩に行かれた際、摘まれてきた花を飾ったりしている。場所がわかるように目印をつけている。天候により、明るさも調整している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(外部評価)	
			居間は、南向きで明るく、調査訪問時はお天気もよく、ベランダには布団を干しておられた。時には、利用者は職員と一緒に洗濯ものを干したり取り入れたりされている。テーブルの上には、散歩で拾ったどんぐりで動物を作って飾っており、利用者のおしゃべりの話題にもなっていた。壁面には、お正月の飾り付けがされており、行事や外出の様子の写真に職員がコメントを付けておられた。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価)	
			昔から馴染みのある物は、可能な限り用いて、安心して過ごせるようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(外部評価)	
			居室入り口には、職員手作りの表札を付けておられる。畳に布団を敷いている方や嫁入りたんすや仏壇を持ち込んでいる方もみられた。ご家族の写真やご自宅からの持って来られたアルバムを時々眺めたり、奥さんが来訪した際には、お二人で将棋を楽しむ方もいる。お花のお好きな方は、鉢植えを置き世話をされている。ナースコールを押すことが難しい方は、大きな鈴を鳴らせるよう枕元に置いておられた。	